

令和 2 年 4 月 28 日現在

機関番号：32202

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12000

研究課題名（和文）看護職のリフレクション及び継続学習を促進する他者とのかかわりの様相

研究課題名（英文）A study on the involvement with significant others promoting reflection and continued learning of clinical nurses: Cross-sectional study

研究代表者

石井 慎一郎 (Ishii, Shinichiro)

自治医科大学・看護学部・講師

研究者番号：80724997

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：省察のスキルである自己への気づきは自身の感情評価・分析によって可能といわれている。本研究代表者は、看護職の自己への気づきは臨床経験だけで育まれるのではなく、生活体験や継続学習が影響していることを明らかにした。さらに、他者の感情評価が高い看護職ほど、より省察的であった。しかし、看護職のリフレクション及び継続学習を促進する他者については明らかとなっていない。このことから、看護職自身の生活体験を構成する要素のうち、かかわり先である他者に着目した。そこで、臨床看護職を対象に、仕事をする上で大切なかかわり先（他者）と職務エンパワメントとの関係を明らかにすることを目的に調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護職の他者とのかかわりが明らかとなり、属性に基づき、大切なかかわり先や自身を振り返る機会を提供できる。また、リフレクション及び継続学習の実態に基づき、ロールモデルが提示され、新人及び現任教育に必要な教育的資料となることに加え、臨床看護実践に寄与できる。さらに、リフレクションに必要な自己への気づきにつながる看護職自身の感情、リフレクションを促進する他者とのかかわりとの関係を検討することは、職場全体の再評価や継続学習の一助となり、チームや組織の変化・発展に寄与できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the relationship between clinical nurses and their involvement with important agents, and job empowerment in the nursing workplace.

研究分野：看護管理学

キーワード：省察 感情指数 他者とのかかわり 感情 reflection emotional intelligence involvement with others emotional engagement

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

高度な看護実践能力には継続的学習が不可欠であり、その育成には省察的な実践と臨床における学びの振り返りが有効といわれている(日本看護協会, 2006; Margaret, 2011)。そのリフレクション(省察)の土台となるスキルである自己への気づきは、自身の感情評価・分析により可能ともいわれている(Atkins & Murphy, 1993; Sarah et al.: 2005)。

本研究者はこれまでに、看護職約 600 名と非看護職約 300 名を対象に感情指数の実態調査を行った(石井, 2014; 石井, 他. 2014)。感情指数とは、感情を取り扱う個人の能力であり、自己及び他者の感情評価、感情の調整などで構成される(Law, Wong & Song:2004)。調査の結果、看護職の感情指数は非看護職よりも有意に低いことを明らかにした。また、看護職の感情指数の特性として、自己の感情評価は年齢が高くなるにつれて有意に高くなり、より高等な看護教育を受けた看護職ほど有意に高かった。このことから、看護職の自己の感情評価に影響を与えている要因は看護職自身の生活体験や継続的な学習であることが示唆された。

リフレクションの概念は、D. Schön により提唱された。看護職のリフレクションに必要なスキルやその発展に関する研究は、我が国でも 2000 年代から増加傾向にある。興味深い研究として、中村ら(2014)は、新人看護師の成長につながるリフレクションの意味について分析及び構造化し、<自己をエンパワメントする力の獲得> 他を明らかにした。しかし、<自己をエンパワメントする力の獲得> は、「支援を求める力」及び「他者から学ぶ力の獲得」、「自己の他者への開放」等で説明されているものの、他者との関係や他者から学んでいる具体的な内容については明らかにされていない。このことから、看護職のかかわり先である他者について明らかにする必要があったと考えた。また、看護職の継続学習は、ツールや方法についての見直しや報告は多数みられるが、継続学習の実態や評価に関する報告及び研究はわずかである(坂下, 他. 2013; 松谷, 他. 2012; 中原, 他. 2010)。

本研究者は、本課題に先立って、看護職 64 名の他者とのかかわりについて質問紙を用いた予備調査を行った(右図)。多くの看護職はかかわり先として[同僚・同期]を選択し、職場以外でも[看護職]が半数を越えた。また、同じ部署で[同僚・同期]を選択した者の「仕事のやる気」は選択しなかった者よりも有意に低かった。そのため、本研究では、まずは看護師が他者から学んでいる内容を質的調査によって明らかにすることで、仕事のやる気につながるかかわり先や他者から得ている支援の具体的内容が明らかになると考えた。

そこで、本研究は、これまでの自身の研究成果と先行研究のエビデンスをもとに、リフレクション及び継続学習を促進する他者とのかかわりの様相を明らかにすること、そしてリフレクションを促進する教育プログラムを開発することを目的とした。

2. 研究の目的

本研究は、これまでの自身の研究成果と先行研究のエビデンスをもとに、リフレクション及び継続学習を促進する他者とのかかわりの様相を明らかにすることである。さらにリフレクションに必要な自己への気づきに関わる感情指数の実態を調査することで、継続教育および看護基礎教育の実践に向けた基礎資料を得ることである。

3. 研究の方法

1) 看護職の感情指数

精神科病院の看護師と精神科病院以外の看護師の計 206 名に無記名自記式質問紙を配布した。感情指数測定には、Japanese version of the Wong and Law Emotional Intelligence Scale (J-WLEIS, 16 項目, 4 下位因子)を用いた。分析は、2 群間の J-WLEIS Total 及び下位因子の平均得点を t 検定により比較した。

2) 看護職のかかわり先と職務エンパワメントとの関連

関東地方の精神科病院の看護職 272 名を対象に、基本属性、仕事をする上で最も大切にしているかかわり先(同じ部署の上司や先輩など)11 項目、日本語版職務エンパワメント尺度(JNWES、「機会」7 項目)を調査した。JNWES(機会)は「ほとんどない(1点)」~「とてもある(5点)」の 5 件法であり、かかわり先間の得点を比較した(一元配置分散分析)。次に、JNWES 得点を 3 群に分け、かかわり先とエンパワメントとの関連はコレスポネンス分析を行った。

4. 研究成果

1) 分析対象は 159 名であり、精神科看護師 87 名と精神科以外の看護師 72 名から回答を得た。J-WLEIS のクロンバック 係数は、尺度全体 0.85、自己の感情評価 0.84、他者の感情評価 0.72、感情の利用 0.70、感情の調整 0.83 であった。2 群間の J-WLEIS を比較した結果、J-WLEIS Total と下位因子 [自己の感情評価(Self-Emotions Appraisal, SEA)] に有意な差が見られた。とくに精神科看護師の[SEA]は IMNs よりも有意に低かった($p < 0.001$, Cohen's $d: 0.65$)。本研究結果は日本の看護職の今後の情動知能に関する基礎的資料となる。しかし、看護職が省察の実践によって自己への気づきを高めることにつながる他者とのかかわりや他者からの支援の内容についても明らかにする必要があった。また、看護基礎教育においては、学習者が自身の感情に向き合うような教材の開発・拡大、あるいは感情を引き出す教

員のさらなる実践力の向上が課題である。

- 2) 分析対象者は 251 名であり、女性 188 名、男性 63 名、平均年齢 44.9 歳 (SD11.0、範囲 20-68)、平均臨床経験年数 17.6 年 (10.5、1-46) であった。かかわり先は、[同じ部署の同僚] 106 名 (42.6%)、[同じ部署の上司] 82 名 (32.9%)、[同じ部署の先輩] 27 名 (10.8%)、[他部署の同僚] と [院外の非医療職] 各 8 名 (3.2%)、[他部署の上司] と [院外の看護職] 各 5 名 (2.0%)、[同じ部署の後輩] 4 名 (1.6%)、[院外の医療系他職種] 3 名 (1.2%) の順に多かった。今回、回答が少なかった [他部署の先輩] は分析から除外した。かかわり先別の JNWES 得点 (SD) は、[同じ部署の後輩] 3.25 (0.39)、[同じ部署の先輩] 2.98 (0.57)、[同じ部署の上司] 2.90 (0.59) の順に高く、有意な差がみられた (一元配置分散分析, $p=0.003$)。次に、JNWES 得点とかかわり先との関連はコレスポネンス分析を行った。行にはかかわり先、列には JNWES 得点の低群 90 名、中間群 52 名、高群 107 名の 3 群とし、布置図に示した。高群は [同じ部署の上司]、[同じ部署の先輩]、低群は [同じ部署の同僚] と近い布置であった。このことから、高群は同じ部署の上司と先輩とのかかわりを、低群は同じ部署の同僚とのかかわりを大切にしているともいえる。JNWES 高群は同じ部署の上司や先輩とのかかわりを通して、あるいは上司や先輩が同じ部署の後輩のエンパワメントを引き出していると考えた。一方、低群と [同じ部署の同僚] とのかかわりには、昇進またはより良い部署への異動の機会、現在の仕事とは異なる新しい役割を引き受ける機会の少なさなどが考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ishii Shinichiro, Horikawa Etsuo	4. 巻 10
2. 論文標題 The Emotional Intelligence of Japanese Mental Health Nurses	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fpsyg.2019.02004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Ishii Shinichiro	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 Study of the emotional intelligence of psychiatric nurses	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Japan Health Medicine Association	6. 最初と最後の頁 2-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石井慎一郎, 板橋直人, 杉田百合子
2. 発表標題 精神科病棟の看護管理者およびスタッフの他者とのかわりと支援の内容
3. 学会等名 第26回日本精神科看護専門学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井慎一郎, 田村敦子, 富川明子, 白濱雅子, 路川達阿起
2. 発表標題 看護教育における感情的エンゲージメントに関する文献検討
3. 学会等名 日本感情心理学会第27回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井慎一郎, 富川明子
2. 発表標題 看護職の情動知能と経験学習に関する研究
3. 学会等名 日本感情心理学会第26回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井慎一郎, 板橋直人, 富川明子
2. 発表標題 精神科看護職の職務エンパワメントとかがわり先との関係
3. 学会等名 第17回自治医科大学シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井慎一郎, 板橋直人
2. 発表標題 精神科看護職の他者とのかがわりと職務エンパワメントとの関係
3. 学会等名 日本精神保健看護学会第28回学術集会・総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井慎一郎, 瀬戸山美和
2. 発表標題 看護学生の情動知能と他者とのかがわりに関する研究: A longitudinal study on Emotional Intelligence and involvement with others of nursing students
3. 学会等名 日本教師学学会第19回大会, 兵庫
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井慎一郎, 大川内鉄二, 瀬戸山美和, 路川達阿起, 佐藤貴紀
2. 発表標題 看護学生の情動知能と他者とのかかわりに関する研究: 専門学校生と大学生の比較
3. 学会等名 日本情動学会第7回大会, 富山
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井慎一郎, 板橋直人, 杉田百合子, 路川達阿起, 佐藤貴紀
2. 発表標題 精神科看護職の他者とのかかわりと職務エンパワメントとの検討
3. 学会等名 第24回日本精神科看護専門学術集会, 石川
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井慎一郎, 瀬戸山美和, 大川内鉄二, 路川達阿起, 佐藤貴紀
2. 発表標題 看護学生の情緒知能と他者とのかかわりに関する研究: 入学時・1年後・2年後の縦断調査
3. 学会等名 日本教育心理学会第59回総会, 愛知
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井慎一郎, 板橋直人, 路川達阿起, 佐藤貴紀
2. 発表標題 看護職の感情の制御と省察に関する研究
3. 学会等名 日本感情心理学会第25回大会, 京都
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石井慎一郎, 中島富有子, 瀬戸山美和, 大川内鉄二
2. 発表標題 看護学生の情動知能とかかわり先に関する縦断調査: 入学から1年半後まで
3. 学会等名 日本教師学学会第18回大会, 埼玉
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	板橋 直人 (Itabashi Masato) (80570275)	日本保健医療大学・保健医療学部・講師	